

## 「慢性糸球体腎炎の腎尿細管間質病変形成におけるプラスミンの関与の検討」 のお知らせとお願い

医療技術のめざましい発展にもかかわらず、各種の腎疾患から末期腎不全に陥り、透析や腎移植を必要とする患者さんの数は、全世界的に増えつづけ、医療経済的にも重大な問題となってきました。このような状況のもと、各種腎疾患から腎不全への進行を防止するための、より良い治療法の開発が強く求められています。さて、各種の腎疾患から末期腎不全へ進行する際には、必ず腎臓の尿細管間質と呼ばれる部位に線維化がみられることから、尿細管間質病変が腎疾患進展の共通経路として注目されてきております。そこで、当科では、腎生検の結果、慢性糸球体腎炎と診断された患者さんの腎組織を用いた研究を計画しております。具体的には、診断に用いた腎生検組織の残りの組織を用いて、炎症の誘導により尿細管間質病変形成への関与が考えられている plasmin の蛋白質レベルでの発現、酵素活性と、それに伴う炎症の指標として、マクロファージ・好中球などの炎症性細胞の浸潤の程度を解析します。

本研究は、今後、研究のために患者さんから検体を採取したり投薬をしたりすることはなく、これまでの入院治療での既存試料等のみを用いる後方視的研究です。

患者さんの臨床データは ID 等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、その他通常の診療と同様にプライバシーが保護されます。また、平成 14 年 1 月から平成 23 年 12 月までに、防衛医科大学校病院で腎生検を施行され慢性糸球体腎炎と診断された方で、ご自分の臨床データや採取組織を研究に使わないで欲しい、というご希望が有れば、下記の連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校病院腎臓内分泌内科における診療には全く何の影響もなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

連絡先：埼玉県所沢市並木 3 - 2  
防衛医科大学校 腎臓内科学  
電話：04-2995-1511（内線：2971）  
研究担当医師：尾田高志